

歯科・小児在宅診療所等に関する
アンケート調査結果

平成 26 年 3 月

奈良県

医療政策部保健予防課

1. 調査の概要

1. 名称

歯科・小児在宅診療所等に関するアンケート調査結果

2. 調査の目的

小児在宅医療について、小児科を標榜する医療機関、及び歯科診療所の意識調査。県民にとって身近な地域の診療所が小児在宅医療についてどのように考えているかを把握し今後の県内小児在宅医療体制推進の基礎資料とすることを目的とする。

3. 調査実施期間

平成 25 年 11 月

4. 調査基準となる期日（期間）

平成 25 年 10 月の時点

5. 調査対象者

県内小児科診療所

在宅支援歯科診療所または、小児歯科標榜診療所

6. 回収率

対象者数 医科 410 ヲ所 歯科 631 ヲ所

回収数 医科 212 ヲ所（回収率 51.7%） 歯科 237 ヲ所（回収率 37.6%）

7. 調査事項

診療所医師の年齢、小児在宅医療の推進について、小児受け入れの意思について、実施するための条件など

8. 調査方法

郵送で調査書を配布し、FAX または郵送にて回収した。

9. 調査実施者機関

医療政策部保健予防課

奈良県医師会

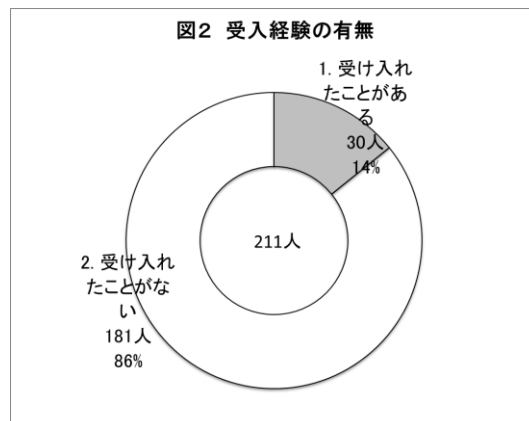
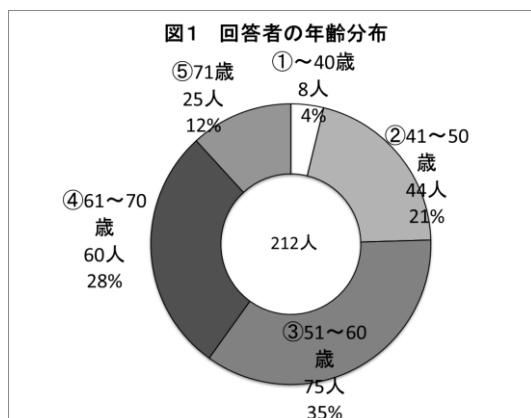
小児科医会奈良県歯科医師会

2. 調査結果(医科)

1. 回答者の年齢分布と小児在宅医療受け入れ経験の有無

回答者の年齢は41～70歳までで全体の84%を占める。中でも最も多かったのは、51～60歳であった。(図1)

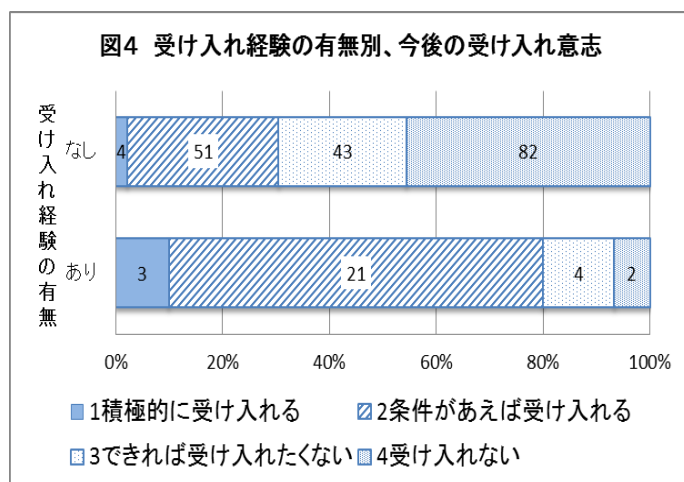
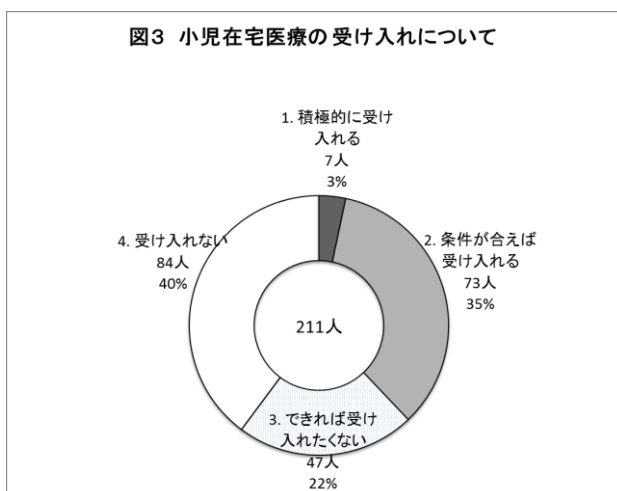
今までに小児在宅医療を受け入れたことがあると答えた人は全体の14%で、86%が受入経験がなかった。(図2)



2. 小児在宅医療の依頼があった場合の受入の有無と年齢別受け入れ意思

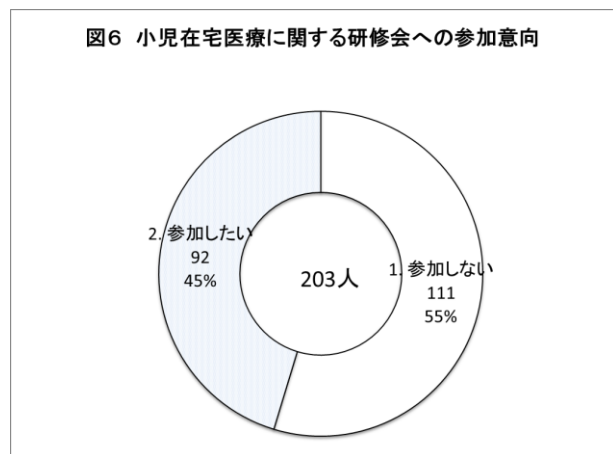
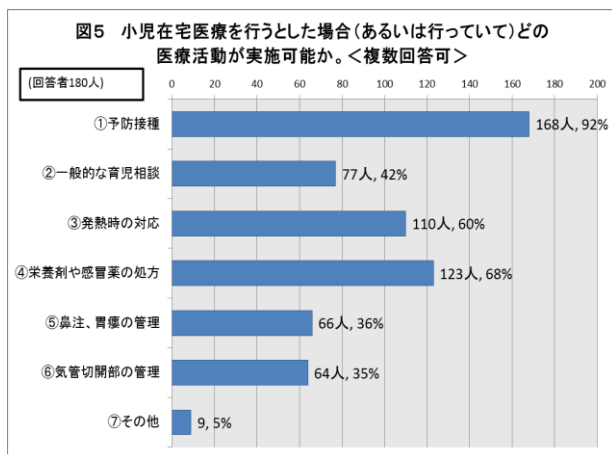
小児在宅医療の受け入れ意志については、積極的に受け入れる、条件が合えば受け入れると回答した人が211人中80人で、全体の38%であった。(図3)

受け入れ経験の有無と今後の受け入れ意思については、受け入れ経験のある医師ほど、「積極的に受け入れる」、または「条件があえば受け入れる」と回答したものが多かった。受け入れ経験がない者のうち70%が「できれば受け入れない」、又は「受け入れない」と回答している。理由としては多忙などの理由が多い。

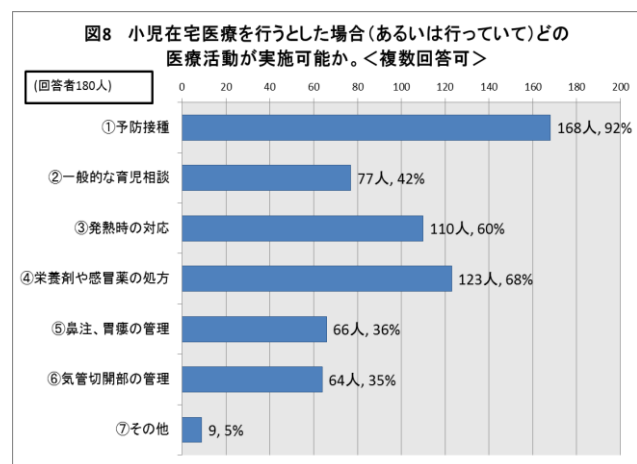
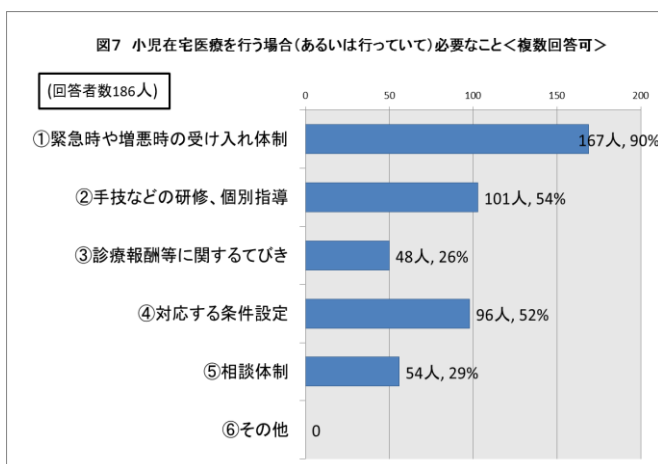


3. 小児在宅医療を実施する場合、可能な医療活動について、研修会への参加意思について
 予防接種 92%、栄養剤や感冒薬の処方 68%、発熱時の対応 60%の順に多かった。鼻腔
 注入や胃瘻の管理、気管切開部の管理については約 35%の医師が実施可能という結
 果であった。（図 5）

研修会への参加については、参加したいが 45%であった。（図 6）

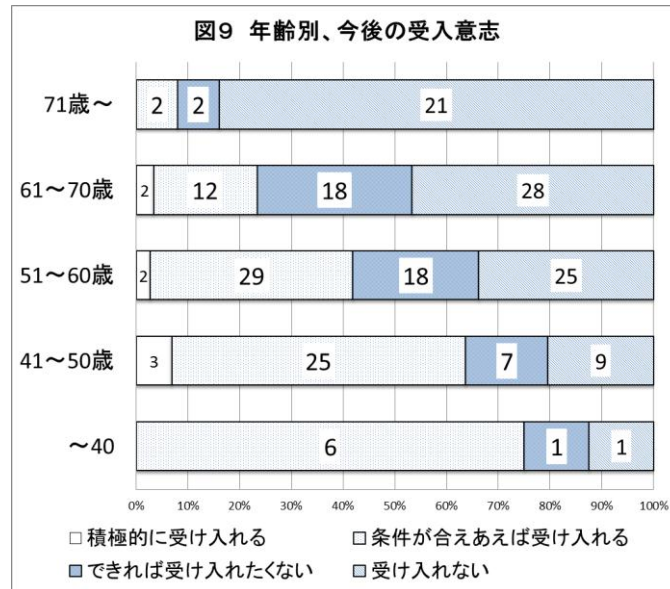


4. 小児在宅医療を行う場合必要なことについて
 受け入れにあたって必要なこととして、「緊急時や増悪の受け入れ体制」がもっと
 も多く、次に「手技などの研修、個別指導」が多かった。（図 7）
 受け入れ経験のある医師についても同様の傾向がみられた。（図 8）



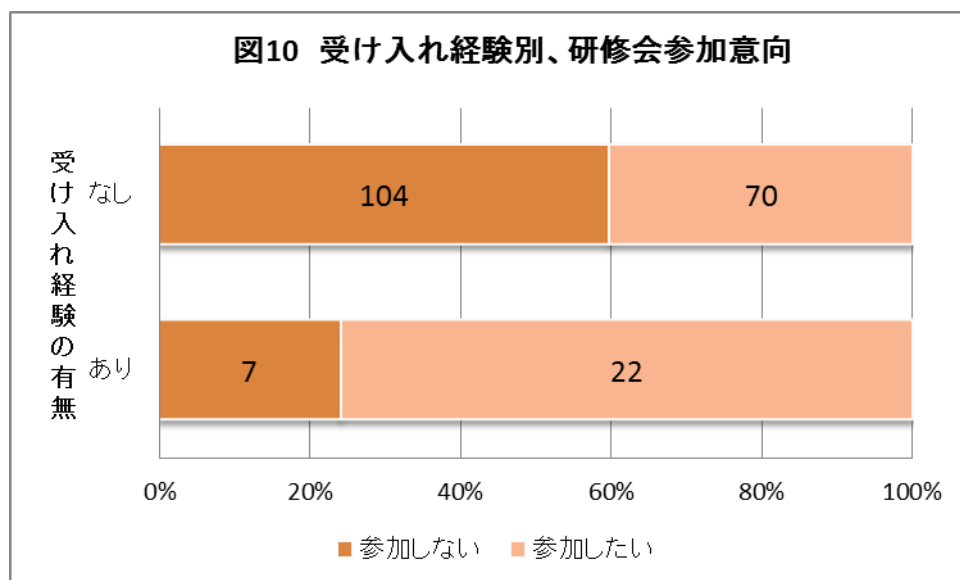
5. 年齢別、今後の受け入れ意思について

年齢と今後の受け入れについて、年齢層が低いほど受け入れ意志が強かった（図9）



6. 研修会の参加意向について

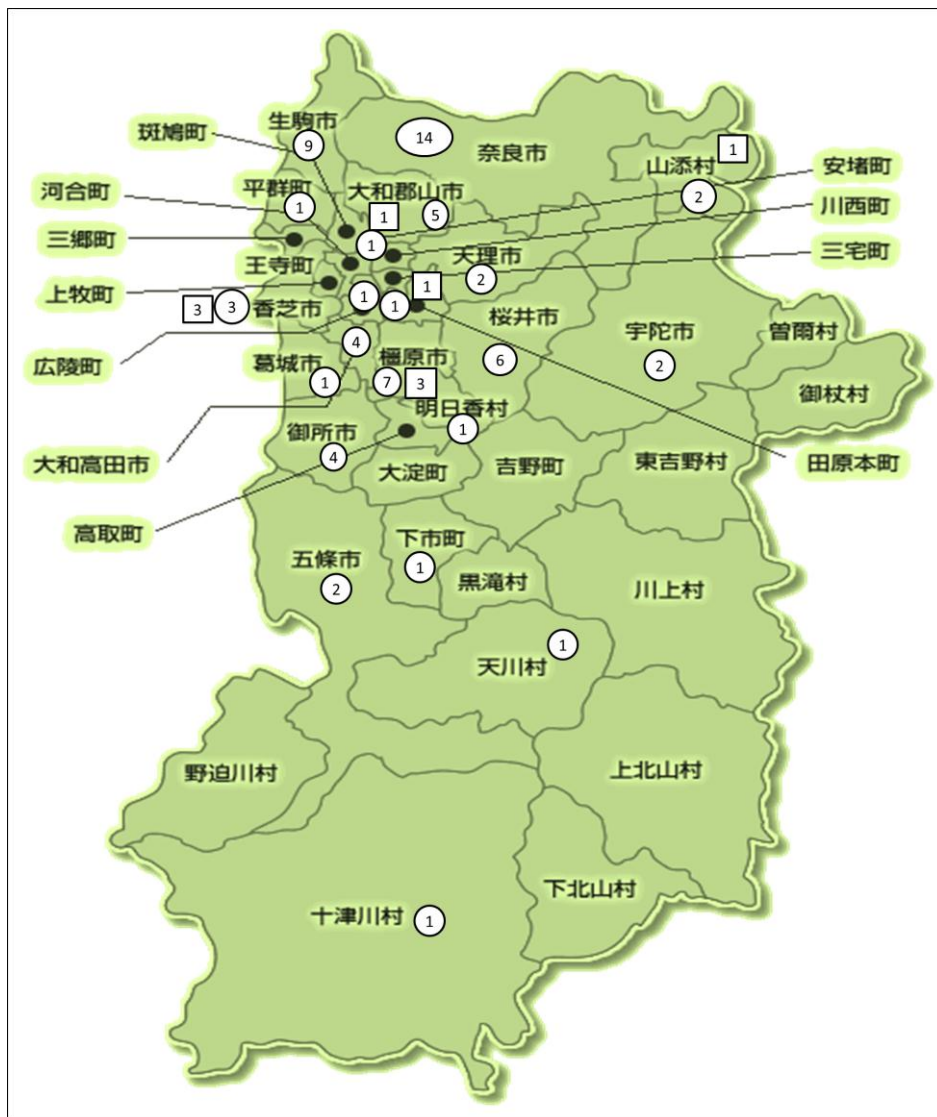
受け入れ経験のある医師と受け入れ経験のない医師の研修参加意向を示したところ、受け入れ経験のある医師については「参加したい」が76%、受け入れ経験のない医師は「参加したい」が40%であった（図10）。



7. 受け入れに前向きな医院

地図上に小児在宅医療の受け入れについて、「積極的に受け入れる」又は「条件が合えば受け入れる」と回答した医院の場所を地図上に示した。やや北西部に集中しているが、中南部にもみられる。(図 12)

図 12 市町村別受け入れに前向きな医院

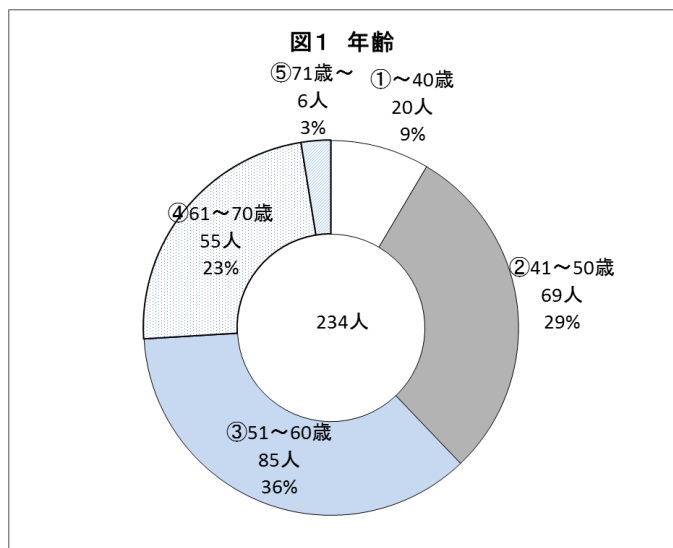


□ : 積極的に受け入れる
○ : 条件が合えば受け入れる

3. 調査結果（歯科）

1. 回答者の年齢分布と受け入れ経験の有無

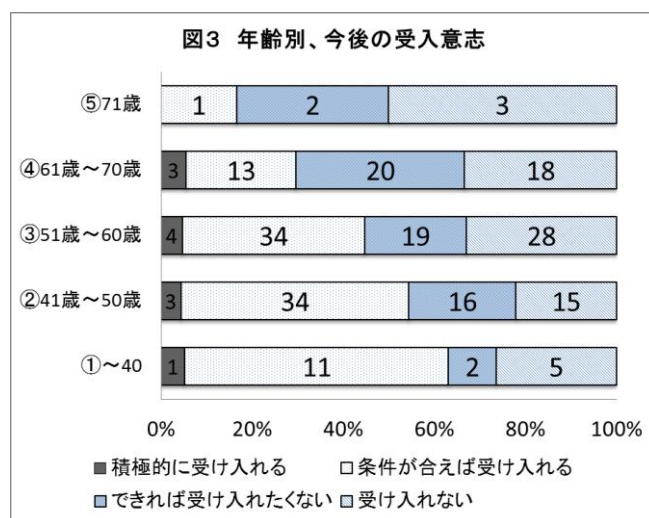
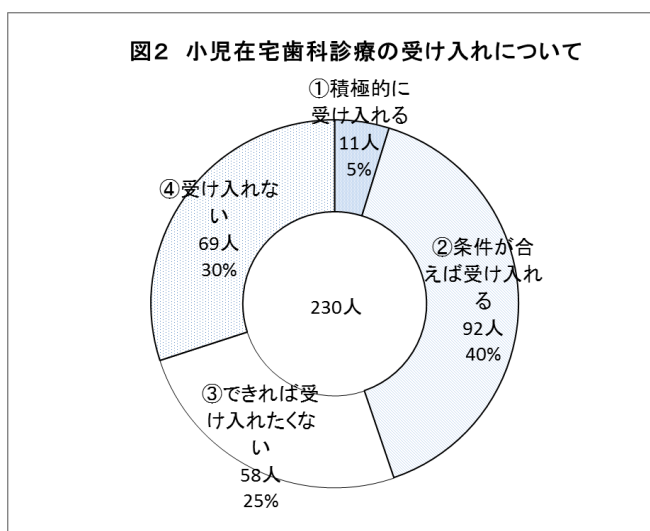
回答者の年齢は41～60歳までで全体の65%を占める。中でも最も多かったのは、51～60歳までであった。（図1）



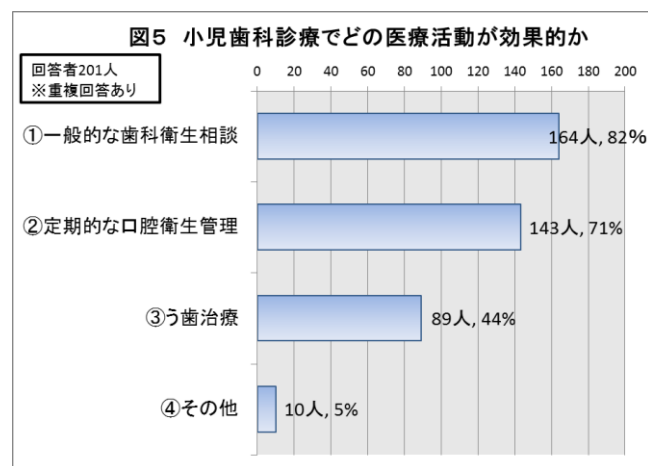
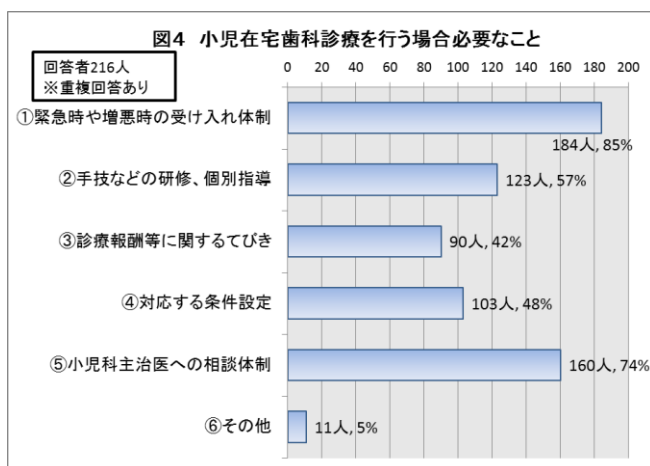
2. 小児在宅医療の依頼があった場合の受け入れの有無と年齢別受け入れ意志

在宅歯科診療の受け入れについて「積極的に受け入れる」、「条件があえば受け入れる」45%であった（図2）。

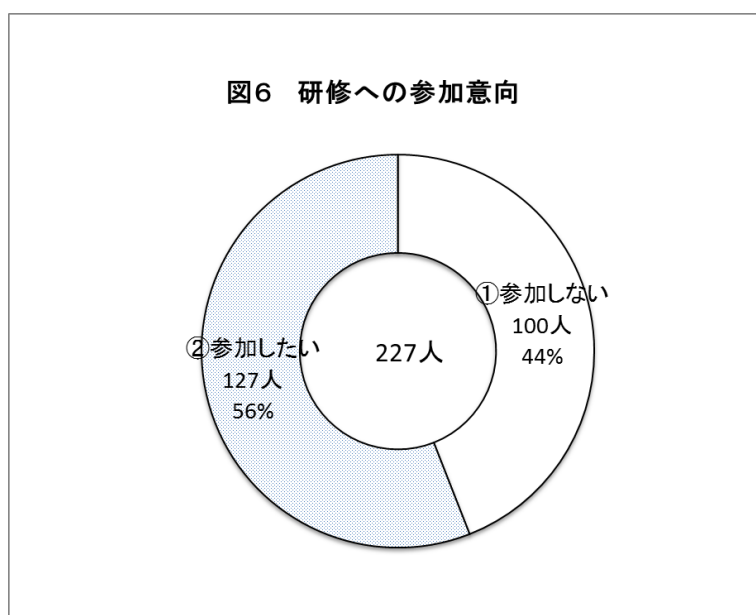
受け入れ意志を年齢別にみると、年齢が若い医師ほど、「積極的に受け入れる」、「条件があえば受け入れる」と回答した割合が高い（図3）。



3. 小児在宅歯科診療を行う場合必要なこと、また効果的な医療活動について
 小児在宅歯科診療を行う場合必要なことは、「緊急時や憎悪時の受け入れ体制」85%、「小児科主治医への相談体制」74%、「手技などの研修、個別指導」57%の順に多かった。（図4）小児歯科診療で効果的な医療活動については、「一般的な歯科衛生相談」が82%、「定期的な口腔衛生管理」が71%であった。（図5）



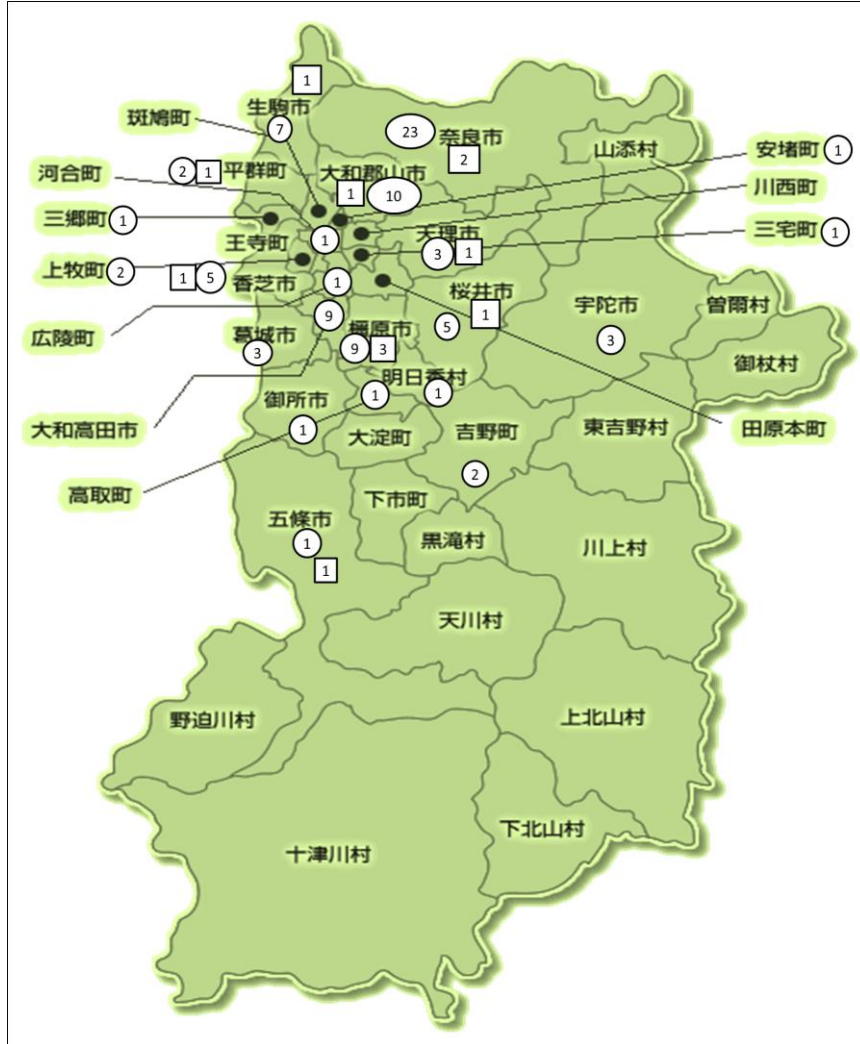
4. 研修会への参加意向について
 小児在宅診療に関する研修会を開催した場合の参加意向について確認したところ、56%が参加したいと答えた（図6）



4. 市町村別、受け入れに前向きな歯科医院

地図上に小児在宅医療の受け入れについて、「積極的に受け入れる」又は「条件が合えば受け入れる」と回答した医院の場所を地図上に示した(図7)。やや北西部に集中している。

図7 市町村別、受け入れに前向きな歯科医院



□ : 積極的に受け入れる

○ : 条件が合えば受け入れる

5. 調査結果のまとめ

【医科】

- ・受け入れ経験のある医師ほど、「積極的に受け入れる」、または「条件があえば受け入れる」と回答したものが多かった。
- ・受け入れにあたって必要なこととして、「緊急時や増悪の受け入れ体制」がもっとも多く、次に「手技などの研修、個別指導」が多かった。
- ・年齢と今後の受け入れについてみると、年齢層が低いほど受入意志が強かった。
- ・受け入れ経験のある医師の方が研修会への参加意向が強かった。

【歯科】

- 受け入れ意志を年齢別にみると、年齢が若い医師ほど、「積極的に受け入れる」、「条件があえば受け入れる」と回答した割合が高かった。
- 受け入れにあたって必要なこととして、「緊急時や憎悪時の受け入れ体制」、「小児科主治医への相談体制」、「手技などの研修、個別指導」が多かった。
- 小児在宅診療に関する研修会について56%が参加したいという回答であった。